SETAGAYA PUBLIC THEATRE

世田谷パブリックシアター

開場20周年を見据えた、
世田谷パブリックシアターのいま

芸術監督・野村萬斎

シーズンラインアップ 2016年度

世田谷パブリックシアター
SETAGAYA PUBLIC THEATRE

世田谷パブリックシアター
芸術監督

野村萬斎

来年の開場20周年を見据えて

1997年に開場した世田谷パブリックシアターは来年、20周年を迎える。その節目を前にした2016年度シーズンのラインアップには、公共劇場らしい多様な作品が並ぶ。

芸術監督・野村萬斎が掲げる3つの方針――

「地域性、同時代性、普遍性」「伝統演劇と現代演劇の融合」、「レパートリーの創造」――その成果について、野村萬斎は笑顔で語りだす。

多様性を大切にするラインアップ

今年は私が2002年に芸術監督に就任してから15年目のシーズンですが、演目のラインアップを眺めると「世田谷パブリックシアターらしいカラー」が鮮明に浮かびます。そのカラーは劇場にいろいろな観客が集い交流する多様性につながるものです。コンテンポラリー・アート（現代芸術）の「とんがった」先進性も、古典や伝統芸能に流れる時代を超えた力も味わえる作品を、皆さんに楽しんでいただきたい。もちろん、どういうスタイルの作品であっても、質の高さを重んじる姿勢は変わりません。

世界中で人々を危機にさらす対立が深まる今、さまざまな視点をもたらすアートは、偏見や差別にとらわれない心を養うためにも役立つはず。私たちの劇場では名高い芸術家の傑作も、若い人の斬新な表現も等価です。また、地域の人々の表現に対する支援や、演劇を通した教育にも力を注ぎます。

パフォーミング・アーツを「使い捨ての紙コップ」みたいに扱ってはもったいない。作品を「愛用するひとつの器」として丹念に磨きあげる習慣を守りたいですね。長く財産になる作品づくりが、最終的に社会に還元する結果になる。社会とつながる作品創造が公共劇場の使命ですから、古典化にも耐えうる質を目指したいものです。

来年、20周年を迎える世田谷パブリックシアターには、ふたつの劇場があります。ひとつは約600席の主劇場、世田谷パブリックシアター。もうひとつが約200席の小劇場、シアタートラム。私は両方の劇場で自ら構成・演出した『マクベス』（初演2010年、詳細は右ページを参照）を上演し、それぞれに他の劇場にはない良さを発見しました。天井が高くて奥行きのある主劇場では、縦長の形を生かす工夫を凝らせる。トラムには俳優の息遣いが伝わるほど親密な距離で演じる、緊張と喜びがある。若手から百戦錬磨のベテランの方々まで、「世田谷パブリックシアター、シアタートラムでぜひ上演したい！」と望むクリエイターは多くいらっしゃいます。独特の構造は、空間感覚の鋭い人にとって作りがいがあるのではないでしょうか。

気鋭の演劇人が登場し、多彩な交流を生む劇場

16年度シーズンには、四演目となる『マクベス』、またフィリップ・リドリーと白井晃さんという当劇場で親しまれている顔合わせによる新作が登場します。夏休みには、親子で楽しめる「せたがやこどもプロジェクト」を開催。そしてオリジナルから翻訳劇まで手掛ける劇団ナイロン100℃主宰のケラリーノ・サンドロヴィッチさんが、当劇場の主催公演に初登場です。さらに2009年にトラムで、その2年後に主劇場で『奇ッ怪』シリーズを作・演出した前川知大さんが世田谷パブリックシアターで新作を披露します。また公共劇場には芸術家を育てる使命もある。気鋭の演劇人の実験精神あふれるステージは、観客の感受性を磨くチャンスともいえます。私が企画・監修する「現代能楽集」シリーズに過去2度ご登場いただいた倉持裕さんの最新作も楽しみです。当劇場で「おなじみ」の海外アーティストも招聘します。ベルギーのダンス・カンパニーであるピーピング・トムなどの、刺激的な作品を世界の人と共有していただければと思います。そしてフランス語圏の劇作家、ワジディ・ムワワド作、上村聡史さん演出で、2014年に初演し各演劇賞を受賞した『炎 アンサンディ』の再演。このように、それぞれ予測不可能なバラエティに富んだラインアップを今年度もお届けします。

（ラインアップ詳細は裏ページを参照）

レパートリーを創造し進化・深化させた『マクベス』

公共劇場は、長いスパンで未来に向けた「投資」を試みることが可能です。長い間、各地で愛されるレパートリーは劇場の財産になるし、異なる地域をつなぐ文化の懸け橋としての貢献もできます。そういう作品を生み出して、進化・深化させていくことが地域に住む方々の誇りにもなる。「世田谷に暮らして良かった！」と思っていただけるような作品を目指したいですね。

「チーム世田谷」の力で国境を超え海外を巡った『マクベス』は、マクベス夫妻と3人の魔女という5人だけの役者で演じる「引き算の演劇」。上演を重ねツアーを行うたびに、洗練されました。その一つの証といえるのは、海外公演に応じて考え出した舞台美術です。

初演の間に森羅万象と登場人物の関係が把握できたので、初演の美術である天球の形から更に大胆に省略しても良いのかなと考えていました。運ぶ際に負担にならず、文化も社会も違う観客とコミュニケートしやすいものは何か？　自問するうち、風呂敷のように折りたためる布が閃いた。数枚の布に、狂言の衣裳に何百年も使われてきたモチーフをあしらいました。

波と千鳥の模様を染めた布を裏返すと、蜘蛛の巣にかかった蝶や蝉が現れる。一瞬にして晴れやかな柄からまがまがしい図にひっくり返る変化は、ドラマの鍵となる魔女の呪文「きれいは汚い、汚いはきれい」を象徴します。

二面性を秘めた布で覆う箱型の枠は、能で使う一畳台に車輪をつけたシンプルな装置。魔女が押すワゴン状の台に乗ってマクベス夫人の遺骸が運ばれるとき、マクベスがつぶやく。「人生は歩く影法師、哀れな役者だ」

『マクベス』には「奢れるものは久しからず」という『平家物語』の諸行無常に通じる無常観が流れる、という解釈のもと、夫人の退場場面では紅葉が舞い散り冬の到来を告げます。

「日本人のアイデンティティ」が世界を魅了

この夏、四演目となる舞台では夫人役に鈴木砂羽さんを迎え、和楽器の生演奏を聴かせます。初演から成長を続けた舞台から、視聴覚ともに進化と深化を遂げたことを感じていただけますように。この『マクベス』は四百年あまり前にイギリスで書かれたシェイクスピア戯曲に、「日本人のアイデンティティ」を重ねて構築した現代演劇です。

「日本人のアイデンティティ」という言葉は、少しむずかしいかもしれません。分かりやすく説明するために、フィギュアスケーターの羽生結弦さんが世界最高得点を更新した『SEIMEI』を例にとりましょうか……。滝田洋二郎監督『陰陽師』『陰陽師Ⅱ』（夢枕獏原作、2001年、2003年公開）で、私は平安時代に生きた安部清明を演じました。この映画に触発された羽生さんは狩衣風の衣裳をつけ、和楽器を用いた映画のテーマ曲をアレンジした音楽に合う振付で滑りました。

昨年、彼と能楽堂で対談したとき、印を結んだり天地人を表す仕草の深い意味を伝えました。ユネスコの無形文化遺産に認定された能楽の、優雅で力強い動きを支える知恵の集積が「日本人のアイデンティティ」。無や静も含む和の伝統を、洋で生まれた競技に生かし、国境を超えて賞賛された成果は素晴らしいですよ。

来年の開場20周年を見据えながら、今後達成したいのは、自分の演出で世田谷のカラーを明示できる、和洋トータルシアターとしての「とんがりかた」を示す新作です。古典的なものをアヴァンギャルドに使う手法は、私の真骨頂（笑）。昨シーズンに再演した『敦―山月記・名人伝―』（原作：中島敦、構成・演出：野村萬斎）では真鍋大度さんプログラミングによる映像効果にチャレンジしました。狂言の型と最新テクノロジーの融合を、開場20周年に披露するレパートリーにも取り入れたい。

ゆくゆくは、世田谷パブリックシアターで育てた作品を、日本中の公共劇場で共有できるシステムを作っていきたい、と願っています。地域の状況に応じて進化・深化した作品が、やがて各国の特徴を反映しながら繰り返し演じられ、変奏や翻案を経て古典に発展していく――。世界中で愛されるレパートリーを目指す思いは、ゆるぎません。

© 瀧谷征司

野村 萬斎
のむら まんさい

1966年、東京都生まれ。狂言師。人間国宝・野村万作の長男。重要無形文化財総合指定者。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督を務める。国内外の能・狂言公演や舞台・映画出演はもとより、世田谷パブリックシアターでは『まちがいの狂言』など狂言の技法を駆使した舞台や、『国盗人』など古典芸能と現代劇の融合を図った舞台を次々と手掛ける。芸術監督就任後初の構成・演出作『敦 ―山月記・名人伝―』では朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞を受賞。構成・演出・主演を務めた『マクベス』は全国各地で上演を重ねるほか、海外公演（ソウル、ニューヨーク、シビウ、パリ）も果たした。

野村萬斎が語る、『マクベス』の歩み

上演のたびに進化、深化を繰り返すレパートリー作品

2008

シェイクスピアが描いた多くの登場人物を減らし、マクベス夫妻と三人の魔女役の俳優だけで演じたい。そうすれば悲劇の構造が、日本人に分かりやすくなるのではないか……。このアイデアが有効だと確信できたのは、2008年に行ったリーディング公演の成果です。強い表現力を持つ俳優が声のみに集中すると、観客は無限にイマジネーションを拡げることができました。公演後は「5人で演じるマクベス」を世田谷パブリックシアターで成立させるため、ドラマを包む世界観と、それに合う視聴覚効果や台詞を推敲しました。

©石川純

2010

スコットランドを舞台にした王位簒奪劇という枠を超えて、森羅万象の中で展開する普遍的な人間の営みへと物語を開くため、宇宙を思わせるセットを作りました。半球形のドーム型装置が天体の広さを、床を回転するベルトコンベヤーが移り変わる現世の儚さを映したのです。そのころ私のなかで、人間が地球を汚染し破壊してしまう、という危機感が強まっていました。近代的な文明に対する批判も、「魔女は森羅万象と共生する自然に近い存在、人間は欲のために自然を破壊する存在」という対立関係に重ねました。折しも東日本大震災の1年前でした。

2013

海外公演を意識して、和風の美も伝えられる折りたたみ式の軽量装置を用いました。能で使う一畳台に車輪をつけ、狂言の衣裳の伝統的モチーフをあしらった布で覆いました。晴れやかな波模様の布を魔女が裏返すと、まがまがしい蜘蛛の巣が広がります。正と邪が布の表裏一体に示され、魔女の重要な台詞「きれいは汚い、汚いはきれい」を視覚にも訴えた。神や森羅万象の象徴である魔女が、複数の役を演じ分けながら装置を動かす演出で、「マクベス夫妻の殺人と破滅という舞台を操るのは魔女だ」というメタシアター的解釈をより明確に打ち出せたのです。

©Daisuke Kabe

大阪のお客様は東京より情熱的に感じられましたけれど、ソウルのお客様からも実に熱くてフレンドリーな反応をいただきました。いきいきした反応からエネルギーが伝わり、演じる私たちの勢いも増幅していった。カーテンコールでは床を踏み鳴らして、盛大に喜んでくれました。NYは英語圏ですから、おそるおそる乗り込みました（笑）。しかし、上演後は解釈の独創性と演技を認める良い批評が続きました。『日本語はこんなに音楽的な言葉だったのか！』と書いていただいたのも嬉しかった。河合祥一郎さんの翻訳にあたっては、毎回音読をさせていただき、耳に与える効果を大切にしました。英語の台詞を日本語に直すと長くなる。そこで丁寧に言葉を刈り込んで、韻を踏み、七五調のリズムを入れ、音律にもこだわりました。そういった工夫により、言葉の壁を超えて文化の違う方々とも舞台を通して交流し、現代の問題を共に考えていく可能性が芽生えたようです。また、暗躍する魔女たちの不気味でユーモラスな演技に対して、大きな笑い声が巻き起こりました。血生臭い悲劇の重さを救う狂言的（コミックリリーフとしての）魔女の役割を、いっそう明示できたステージでした。

© 御堂義乗

2014

NYで小空間を十全に使う醍醐味を知り、会場をシアタートラムに移しました。舞台と客席が近づいたことで、能の『土蜘蛛』などで使う紙紐を染めた血、幽霊としての能面、豪華絢爛な衣裳などが、お客様からよく見えるようになった。身体表現の迫力も増した。たとえば、自分の運命を尋ねるマクベスに、魔女が幻影を見せる場面。かつて寺山修司さんが率いた「演劇実験室◎天井桟敷」のメンバーだった高田恵篤さんたちが、床から背中をはじかれるように飛び上がる動き、俗称「大滅亡」はひときわ迫力がありました。

SIBIU, PARIS 2014

シビウ国際演劇祭では静かに集中する人々が印象的。上演後に観客が楽屋を訪れ「これこそマクベス！」と褒めてくださいました。上演翌日の記者会見ではイギリスのジャーナリストが、「最小限の要素で、最大限の効果を出す舞台に圧倒された」と述べ、発想の源を尋ねられました。パリの観客にとって、マクベス夫妻の栄光と転落を春夏秋冬の季節に重ねたことも新鮮だったようです。アフタートークに残って背景を理解しようとするお客様が多く、能と狂言の世界観を伝え、マクベスの無常観についても解説しました。

2008
ドラマ・リーディング
10月28日（火）
シアタートラム〈2回〉

2010
初演
3月6日（土）～20日（土）
世田谷パブリックシアター〈11回〉

2013
再演

東京公演
2月22日（金）～3月4日（月）
世田谷パブリックシアター〈11回〉

大阪公演
3月8日（金）～9日（土）
サンケイホールブリーゼ〈3回〉

韓国・ソウル公演
3月15日（金）～17日（日）
明洞芸術劇場〈4回〉

アメリカ・ニューヨーク公演
3月23日（土）～24日（日）
ジャパン・ソサエティ〈2回〉

2014
再演

ルーマニア・シビウ公演
6月9日（月）
シビウ国際演劇祭〈1回〉

フランス・パリ公演
6月13日（金）～14日（土）
パリ日本文化会館〈2回〉

東京公演
6月20日（金）～27日（金）
シアタートラム〈9回〉

兵庫公演
7月1日（火）～2日（水）
兵庫県立芸術文化センター
阪急中ホール〈2回〉

名古屋公演
7月6日（日）
名鉄ホール〈2回〉

新潟公演
7月8日（火）～9日（水）
りゅーとぴあ
新潟市民芸術文化会館・劇場〈2回〉

水戸公演
7月12日（土）～13日（日）
水戸芸術館〈2回〉

宮城公演
7月16日（水）～17日（木）
えずこホール
仙南芸術文化センター〈2回〉

福岡公演
7月29日（火）
福岡市民会館大ホール〈1回〉

2008-2014　原作＝ウィリアム・シェイクスピア　翻訳＝河合祥一郎　構成・演出＝野村萬斎　出演＝野村萬斎　秋山菜津子　小林桂太　高田恵篤　福士惠二

Setagaya Public Theatre
Macbeth

公演情報

世田谷パブリックシアター　シアタートラム

2016 4

4月29日[金・祝]～5月5日[木・祝]　ダンス部門　世田谷パブリックシアター
音楽部門　シアタートラム

世田谷区民と劇場が
ともにつくりあげるステージ　今年で20回目！

『フリーステージ2016』

出演＝世田谷区民団体 約60団体

6

6月15日[水]～6月22日[水]　世田谷パブリックシアター

世界各地で熱狂的に迎えられた作品が、
シェイクスピア没後400年の今年、装い新たに甦る

『マクベス』

原作＝ウィリアム・シェイクスピア　翻訳＝河合祥一郎
構成・演出＝野村萬斎　音楽監修＝藤原道山
出演＝野村萬斎　鈴木砂羽　小林桂太　高田恵篤　福士惠二

© 澁谷征司

7

7月12日[火]～7月31日[日]　シアタートラム

イギリスで2015年に発表された
不思議でブラックなコメディー、本邦初演

『レディエント・バーミン Radiant Vermin』

作＝フィリップ・リドリー　翻訳＝小宮山智津子
演出＝白井晃
出演＝高橋一生　吉高由里子　キムラ緑子

7月30日[土]　世田谷パブリックシアター

毎回多彩なゲストを招き、
「表現の本質」を探る芸術監督企画

『MANSAI◉解体新書 その弐拾六』

出演＝野村萬斎　ほか

© 森日出夫

8

せたがやこどもプロジェクト2016

ステージ編

8月5日[金]～8月11日[木・祝]　シアタートラム

ストラヴィンスキーの名曲の生演奏と
お話とダンスで紡ぐ、近藤良平版異国のおとぎ噺

『兵士の物語』

演出＝近藤良平　作曲＝イーゴリ・ストラヴィンスキー
台本＝シャルル・フェルディナン・ラミューズ　翻訳＝小宮山智津子
出演＝近藤良平　川口覚　北尾亘　ほか

©HARU

8月13日[土]～8月14日[日]　シアタートラム

ライブ演奏、楽しいおしゃべりや
歌をまじえた、絵本の読み聞かせ
子どもとおとなのための◎読み聞かせ

『お話の森』

出演＝小林顕作　ROLLY

© 石川純

8月20日[土]～8月21日[日]　世田谷パブリックシアター

日野皓正と世田谷区立中学生の
ジャズビッグバンドによる、大迫力のコンサート

『日野皓正presents Jazz for Kids』

出演＝日野皓正　Dream Jazz Band　ほか

© 牧野智晃

ワークショップ編

小学生／中学生／高校生のための演劇・ダンスWSを各種開催

10

10月　シアタートラム

今後上演予定の作品や実験的なリーディングを通して、
舞台芸術の面白さに出会う

『戯曲リーディング』

演出＝野村萬斎

10月15日[土]・16日[日]　キャロットタワー周辺

三軒茶屋の街が、ちょっと風変わりな
「アートタウン」に変貌する2日間　今年で20回目！

世田谷アートタウン2016

『三茶de大道芸』

出演＝国内外のパフォーマー 約50組

10月14日[金]～10月16日[日]　世田谷パブリックシアター

ジャグリング×身体＝新感覚のパフォーマンス！
注目のカンパニーがフランスより初来日

世田谷アートタウン2016 関連企画

カンパニーデフラクト『フラーク』

出演＝ギヨーム・マルティネ　エリック・ロンジュケル
音楽＝ダヴィッド・マイヤール

©Pierre Morel

10月23日[日]　世田谷パブリックシアター

選りすぐりの芸人が登場！劇場で“寄席のにぎわい”を味わおう

『爆笑寄席●てやん亭』

10月31日[月]～11月20日[日]　世田谷パブリックシアター

超常的な世界観を真骨頂とする前川知大が、
異界との共生を綴る「遠野物語」を劇化する

『遠野物語・奇ッ怪 其ノ参』

原作＝柳田国男（「遠野物語」角川ソフィア文庫）
脚本・演出＝前川知大
出演＝仲村トオル　瀬戸康史　山内圭哉　池谷のぶえ
安井順平　浜田信也　安藤輪子　石山蓮華　銀粉蝶

11

11月～12月　シアタートラム

映画愛に溢れる、
KERA・MAP版「カイロの紫のバラ」

『キネマと恋人』

作・演出＝ケラリーノ・サンドロヴィッチ
振付＝小野寺修二

12

12月　シアタートラム

若手団体の登竜門的存在！
劇場が期待を寄せる新しい才能を紹介

シアタートラム ネクスト・ジェネレーション vol.9

出演＝公募若手団体1組

2017 1

1月　世田谷パブリックシアター

海外招聘演劇公演①

2

2月　世田谷パブリックシアター

海外招聘演劇公演②

2月　シアタートラム

大舞台から小劇場まで、
演劇界で縦横無尽の活躍を見せる倉持裕が、
シアタートラムに再登場

『倉持裕 作・演出 新作公演』

2月27日[月]～3月1日[水]　世田谷パブリックシアター

驚愕のテクニックと奇想天外なイメージ、
全世界にファンを持つダンス・カンパニーの新作

ピーピング・トム『ファーザー』

© Herman Sorgeloos

3

3月　シアタートラム

戦火に引き裂かれた家族、人間の尊厳とは!?
2014年度の各演劇賞を受賞した衝撃作、再び

『炎 アンサンディ』

作＝ワジディ・ムワワド　翻訳＝藤井慎太郎
演出＝上村聡史
出演＝麻実れい　栗田桃子　小柳友
中村彰男　那須佐代子　中嶋しゅう　岡本健一

© 細野晋司

3月　シアタートラム

地域の多世代にわたる参加者が語らい、
観客とともに考える発表会

『地域の物語2017』

© 服部貴康

世田谷パブリックシアターの多彩な普及啓発・人材育成事業

世田谷区を中心とする地域の人々に向けて、演劇やダンスを観るだけではなく活用していくあり方に触れるワークショップやレクチャーなどを劇場内外で行います。誰もが等しく文化・芸術に親しみ、共有できる事業を展開することで、豊かな地域社会の形成を目指します。

コミュニティプログラム

- ▶演劇・ダンスワークショップ
- ▶子どものためのワークショップ
  - 小学生・中高生のための演劇・ダンスワークショップ
  - 世田谷パブリックシアター演劇部 中学生の部
- ▶地域の物語ワークショップ

学校・施設との連携プログラム

- ▶学校のためのワークショップ
  - かなりゴキゲンなワークショップ巡回団
  - 先生のための演劇ワークショップ
- ▶世田谷区立中学校演劇部支援
- ▶区内施設連携プログラム
- ▶移動劇場
  - 世田谷パブリックシアター@ホーム公演
  - 世田谷区内の高齢者施設ほかで上演
  - 『チャチャチャのチャーリー ～風に吹かれて、森の花嫁～』
  - 脚本・演出＝ノゾエ征爾

研究育成プログラム

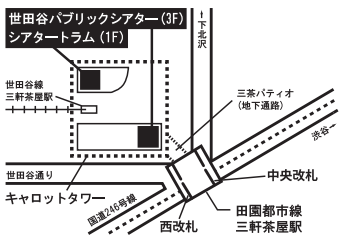
- ▶観客育成プログラム
  - 舞台芸術のクリティック
  - 世田谷パブリックシアター ダンス食堂
- ▶専門家育成プログラム
  - 進行役のための世田谷ワークショップラボ
  - 演劇研究ゼミナール
  - 舞台技術講座

チケット購入のご案内

世田谷パブリックシアター チケットセンター
キャロットタワー5階
Tel. 03-5432-1515
電話・窓口 10:00 ～19:00
年中無休（年末年始を除く）

世田谷パブリックシアター オンラインチケット
PC　http://setagaya-pt.jp/
携帯　http://setagaya-pt.jp/m/

アクセス



三軒茶屋駅 直結
［東急田園都市線（渋谷より2駅・5分）・東急世田谷線］
〒154-0004
世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー内
Tel. 03-5432-1526
Fax. 03-5432-1559
http://setagaya-pt.jp/

ご協賛・ご協力いただいている企業・団体

アサヒビール株式会社
東急電鉄
東邦ホールディングス株式会社
東レ株式会社
TOYOTA
Bloomberg
リュネット アン・バレンタイン
在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
FLANDERS CENTER
ベルギー王国大使館
笹川日仏財団

主催＝公益財団法人せたがや文化財団　企画制作＝世田谷パブリックシアター　後援＝世田谷区　＊記載事項は2016年3月現在の情報につき、予告せず変更する場合がございます。予めご了承ください。デザイン＝加藤賢策・中野由貴（LABORATORIES）　撮影（表紙・中面）＝細野晋司　取材・文（中面）＝桂真菜